令和８年度　**3学年　授　業　改　善　推　進　プ　ラ　ン**　小平市立小平第一小学校

	課題：児童の実態・学習状況・指導の実態	改善プラン：課題改善の方針・具体的手立て
国　語	○学校と家庭学習で音読に取り組んでいるので、すらすら読める児童が増えてきている。 ○話す意欲のある児童は多いが、理由を明確にしたり筋道を立てて話したりする力を身に付ける必要がある。 ○書くことについては、内容のまとまりごとに段落をつくって文章の構成を考えながら書くことに課題がある。 ○全体的に既習の漢字の定着に課題が見られる。まとめの５０問テストは頑張れるが小テストへの取組方、宿題の実施率に課題が見られる。	☆引き続き、教科書の物語教材や説明教材を使い、年間を通して授業の中で音読に取り組む時間を確保する。 ☆友達とペアやグループで話し合って考えを一つにまとめたりするなど、話し合いの話型を教えたり、自分が考えたことに「なぜなら」「理由は」を意識的に付け加えさせたりする。 ☆文章を書く前に構成メモに整理する中で、文章のまとまりを意識しながら書く活動に取り組めるようにする。また、書く活動に困難さを感じる児童には型を提示する。 ☆漢字の部首や書き順などを中心に指導し、ドリルを繰り返し活用し、漢字練習を進める。テストに向けて、新出漢字を中心に復習する中で定着を図る。また、授業の中で意識的に新出漢字を使い、定着につなげていく。
社　会	○調べ学習・見学などの学習活動に意欲的で、積極的に取り組んでいる。 ○社会的事象（小平市の様子）に対して、自分たちの生活経験と照らし合わせて発言するなど関心は高い。 ○観察・調査したり、資料を読み取ったりすることに課題が見られる。 ○調べたことをまとめたり、資料を活用したりするカに差が見られる。	☆地域巡りや一人一台端末などを効果的に活用した学習活動を展開していく。また、地域人材を活用し、児童の興味・関心を高めるとともに、知識・理解の定着を図る。 ☆単元を通して、児童の疑問や知りたいことから学習問題をつくり、課題追及に必然性をもたせる。 ☆観察・調査の行い方(目的・方法)や資料の読み取り方(題・数値など)を繰り返し丁寧に指導し、定着を図る。 ☆調べたことをポスターやパンフレット、フォトコラージュなどにまとめる活動を通して、事実を分かりやすくまとめる力を身に付けるとともに、考えを深めたり広めたりできるようにする。
算　数	○意欲をもって、課題に取り組む姿が見られる。 ○基礎的、基本的な内容の理解や計算の技能などは身に付いている児童が多い。 ○繰り下がりの計算に課題が見られる児童がいる。 ○文章題での立式やなぜそうなるのか説明することに課題が見られる。 ○文章題で、答えが何を表しているのか悩む児童も見られる。	☆児童が主体的に課題に取り組めるような場面設定を引き続き行う。 ☆数値の操作だけではなく、量感を育むために、実際に測量したり、ＩＣＴを活用してイメージさせたりする場面を設定する。 ☆授業開始３分を使い、四則計算に継続的に取り組む中で計算力の定着を図る。 ☆文章題から立式をする際、根拠を明確にするために、図や表等を使って説明する場面を意図的に設定する。 ☆問題場面に対して、一人一台端末やブロック等の操作活動等で理解を深められるようにする。
理　科	○意欲的に実験・観察を行う児童が多い。記録の仕方や観察の視点、技能などには個人差がある。 ○根拠を明確にして予想や仮説を立てる力が不十分である。また、自分で立てた予想や仮説を証明するための実験方法（比較・条件をそろえる等）を考える力を身に付ける必要がある。	☆実験・観察の視点や記録の仕方を具体的に例示したり（良い児童の作品を取り上げる）交流し合ったりすることで、見通しをもって学習できるようにし、一人一人が主体的に関わり、技能を高められるようにする。 ☆「問題、予想、実験の方法を考える、結果、考察、結論」という学習の流れを明確にして取り組ませ、理解の定着を図る。実験方法を考えたり考察をしたりする時には、個人で考えた後にグループで意見を交流し、全体で発表する機会を設ける。
音　楽	○意欲的に学習に取り組み、音楽の楽しさを感じ取りながら活動できる児童が多い。理解度には個人差がある。 ○リコーダーの学習に意欲的に取り組んでいる。基礎基本の定着を図る必要がある。技能習得に個人差がある。 ○曲想に合った歌い方を工夫していく力を伸ばしたい。	☆児童が理解しやすく、関心を高められるような掲示、わかりやすい指示の工夫、画像資料を準備する。 ☆スモールステップで指導を行う。一人一台端末を用いたり、楽譜の難易度を複数準備したりして、個人差に対応した指導を工夫する。 ☆曲の特徴を全体で話し合い、それを手掛かりにどのような表現が適しているか考えさせる。聴き合う場を設定し、どのような歌声がその曲に合っているのか考えさせる場を設ける。
図　工	○全体指導の理解に個人差があり、学習に必要な内容を理解できるよう、配慮が必要である。 ○自分の表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考える力を伸ばしたい。	☆板書、書画カメラ、一人一台端末などを活用し、視覚的に理解したり、後から確認したりできるよう配慮する。個別に声を掛け、支援する。 ☆試しながらつくることのできる題材や繰り返しやってみることのできる題材を計画的に設定する。様々な材料や道具に触れる中で、表したいことを見つけたり表し方を工夫したりする題材を設定する。
体　育	○学習を楽しみ、すすんで取り組む児童が多く、友達と協力して運動している。 ○「器械運動」については技能の習得状況に個人差が大きく、柔軟性に課題が見られる。 ○「体つくり運動」はどの児童も楽しく取り組んでいるが、投げる力に課題がある児童が見られる。 ○自分の課題をもち、課題を解決するために工夫して運動することに課題が見られる。 ○自分の動きがどのようになっているのかイメージできていない児童も見られる。	☆児童の課題に合わせた場を設定し、課題解決に取り組む中で運動の楽しさを味わい、技能が身に付くような学習活動を展開していく。 ☆学習カード等を活用して、一人一人が個々のめあてをもって学習に取り組めるよう指導していく。 ☆毎時間、主運動につながる動きを準備運動の中に取り入れ、技能の習得を図っていく。 ☆体つくり運動の中で、様々な動きを経験させ、特に投げるときの体の動きや投力向上につながる運動遊びを多く行い、技能が身に付くように指導していく。 ☆工夫して運動することができるように、運動のポイントを動画で提示したり、自分の動きを一人一台端末で録画して確認できるようにしたりして、児童同士が見合い、教え合ったり高め合ったりできる時間を設定する。
道　徳	○自分の考えを発表できない児童もおり、活発な議論になりづらいときがある。 ○自己の振り返りを書くことに個人差が見られる。	☆授業展開や発問を工夫したり、ペアや小グループで話し合う機会を作ったりして、児童が自分の考えを安心して発言できる場を作っていく。 ☆自己の振り返りを書くことが苦手な児童のために、交流の時間を確保したり、具体性のある発問にしたりする。
外国語活動	○簡単な挨拶や自己紹介など、対話を通して、意欲的に取り組んでいるが、個人差が大きい。 ○歌やアクティビティを通して、楽しみながら取り組んでいる。	☆ICTを活用し、自分のことを表現しやすくできるようにする。また、どのように発音するか不安な児童向けに一人一台端末で自宅学習用として、親しみやすい歌（テーマ別）も付けてカードを配布する。 ☆外国語の音声やリズムなどに慣れ親しめるように、歌や絵カードを活用した授業を行う。 ☆ＡＬＴと連携しながら繰り返し声に出して表現することで理解を深める。